

《創成科学研究科 博士前期課程 地域創成専攻》

- ・トランスファラブルスキルに特に強く関連する必修科目には◎、関連する必修科目には○、トランスファラブルスキルに関連する選択科目（アドバンスプログラム）には●を記入する。

| 科目名 | | | 教育上主要な科目 | ディプロマ・ポリシー | | | 科目の教育目標 |
|-------------|--------------------------|-----------------|----------|---|---|--|--|
| | | | | 【1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力】 | 【2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲】 | 【3. 国際的発信力及び社会貢献】 | |
| | | | | 人文・社会・人間科学分野における高度な専門知識と関連領域における幅広い知識、論理的思考力を備え、総合的かつグローバルな視点に基づき、明確な問題意識を持ち専門分野における研究を進める能力に加え、地域課題の解決と、持続可能な地域社会の創成に主体的に貢献できる高度な実践能力を | コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら高い倫理観・責任感を身につけ、知性、理性及び感性が調和し、自立して行動できる。 | 現代の地域や社会に見られる諸問題を人文・社会・人間科学とその関連領域の幅広い視点からの的確に分析し、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信する能力を備えるとともに、持続可能な地域社会の創成に主体的に貢献する能力を有する。 | |
| 研究科 共通科目 | 研究科 基礎 教育科目 | データサイエンス | | ○ | ○ | ○ | 1. データの性質を見極め、データから課題解決に役立つ情報を抽出できる 2. データに基づいて問題を考察し解決するプロセスを体験する 3. 専門の異なる人と協働して問題解決できる |
| | グローバル 教育 科目 群 | 国際協力論 | | ◎ | ○ | ◎ | ・文化を異にする地域に技術移転するには、その技術を受容する社会の文脈理解が必要であるということを理解する。 ・グローバルな状況のなかで技術を社会実装する際に必要な社会科学的知識やスキルを身につける。 |
| | | グローバル社会文化論 | | ◎ | ○ | ◎ | ・グローバル社会に対応できる国際的な視点を身につけている。 ・グローバル化社会の課題について理解している。 ・グローバル化する文化について理解している。 |
| | | グローバルコミュニケーションA | | ○ | ◎ | ◎ | ・世界の人々が第二言語としての英語を用いてどのようにコミュニケーションを行っているかを学ぶと同時に、ネット上でボーダーレスに世界にむけて英語で発信するための自信をつける。 ・グローバル化した社会において、変化する社会や活動の場を求めて、知識や世界の人々と協働するためにネットワークをつくる重要性を理解する。 |
| | | グローバルコミュニケーションB | | ○ | ○ | ◎ | 1. 世界の先端技術・科学に関する専門的内容を学修し、国際的な技術動向や科学の実情について理解を深める。 2. 先端技術・科学に関する専門的内容を英語で理解し、英語による表現力やプレゼンテーション力を深める。 |
| | | グローバルコミュニケーションC | | ○ | ○ | ◎ | 1. 先端技術・科学に関する専門的内容を学修し、外国の技術動向や産業の実情について理解を深める。 2. 先端技術・科学に関する専門的内容を理解し、英語によるコミュニケーション力を身につける。 |
| | イノベーション 教育 科目 群 | 科学技術論A | | ○ | ○ | ○ | 1. 自らの専門とは異なる分野の問題の所在を説明できる。 2. 自らの専門とは異なる分野の問題について解決へのアプローチや評価の仕方を説明できる。 |
| | | 科学技術論B | | ○ | ○ | ○ | 1. 自らの専門とは異なる分野の問題の所在を説明できる。 2. 自らの専門とは異なる分野の問題について解決へのアプローチや評価の仕方を説明できる。 |
| | | 科学技術論C | | ○ | ○ | ○ | 1. 自らの専門とは異なる分野の問題の所在を説明できる。 2. 自らの専門とは異なる分野の問題について解決へのアプローチや評価の仕方を説明できる。 |
| | | 科学技術論D | | ○ | ○ | ○ | 1. 自らの専門とは異なる分野の問題の所在を説明できる。 2. 自らの専門とは異なる分野の問題について解決へのアプローチや評価の仕方を説明できる。 |
| | | 科学技術論E | | ○ | ○ | ○ | 1. 技術・科学に関する最新研究の知識を英語で習得する。 2. 異なる分野の問題の所在と、その解決へのアプローチを理解する。 |
| | | ビジネスモデル特論 | | ○ | ○ | ○ | 1. 技術や資源を活用したビジネスモデルの基礎的知識を習得する。 2. ビジネスプランを作成し、その内容を伝える能力を習得する。 |
| | | 地域企業エクスターンシップ | | ○ | ○ | ○ | 県内企業の業界・業種・職種が存在や魅力を知り、その企業の魅力や特徴を自身のキャリアに対する考え方と関連させて論じることができる。 |
| | 実践型地域インターンシップ | | ○ | ○ | ○ | ①職業人としての自覚と責任を実感し、地域社会の牽引役として課題に臨む意識を身につける。 ②職場はもとより異業種の人々や他者との関係を構築し、リーダーシップを発揮してプロジェクトを完遂する。 | |

| 科目名 | | | 教育上主要な科目 | ディプロマ・ポリシー | | | 科目の教育目標 |
|---------------|--------------|---|----------|---|---|--|---------|
| | | | | 【1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力】 | 【2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲】 | 【3. 国際的発信力及び社会貢献】 | |
| | | | | 人文・社会・人間科学分野における高度な専門知識と関連領域における幅広い知識、論理的思考力を備え、総合的かつグローバルな視点に基づき、明確な問題意識を持ち専門分野における研究を進める能力に加え、地域課題の解決と、持続可能な地域社会の創成に主体的に貢献できる高度な実践能力を | コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら高い倫理観・責任感を身につけ、知性、理性及び感性が調和し、自立して行動できる。 | 現代の地域や社会に見られる諸問題を人文・社会・人間科学とその関連領域の幅広い視点からの確に分析し、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信する能力を備えるとともに、持続可能な地域社会の創成に主体的に貢献する能力を有する。 | |
| 専攻基盤科目 | 地域創成論 | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ・国内各地で生起している主要な地域課題の本質(要因)を理解し、その解決に向けての有効な取組事例、施策等を説明できる。 ・自らの専門分野を含む総合的な視点から、地域課題の解決、地域創成の手法について主体的に考えることができる。 | |
| | 地域創成プロジェクト研究 | ○ | ○ | ○ | ◎ | 日本語学校や留学生、高校生との交流を通じて、多様な価値観を理解できるようになるとともに、地域社会、国際社会の一員としての意識のもとに、グローバル化が進む現代社会に対応できるようになる。 | |
| | | | ○ | ○ | ◎ | ・地域社会の構造を多角的に分析する力を身につけている。 ・データビジュアライゼーションを行い、研究成果を視覚的に表現することができる。 ・調査研究の成果をまとめ、論理的・効果的に発表・発信することができる。 ・地域貢献活動の企画・運営を通じて、ナラティブな語りの場を共有するプロジェクトマネジメント能力を養う。 | |
| | | | ○ | ○ | ◎ | ・総合的な文化研究の基本を身につけている。 ・地域の歴史について、文献・考古両面から理解できる。 ・調査研究の成果をまとめ、論理的・効果的な形で発表・発信することができる。 ・地域の表面的な課題のみならず、その背景にある根源的課題にまで届く広い視野を持つ | |
| アカデミック・ライティング | ○ | ◎ | ○ | ○ | 1. 自分の書いた卒業論文(ないしそれにかわる論文)について形式面・内容面の不十分な点を認識する。 2. 論文の構成や形式について理解する。 | | |
| 地域系科目 | 地域計画学特論 | | ◎ | | ○ | 地域との関わり方から、計画立案、プロセスデザイン、持続性の確保に向けた一連のプロセスを体系的に理解する | |
| | 地域社会特論 | | ◎ | | ○ | 授業で示された地域社会に関わる理論の中から、受講生の修士論文に関連する地域社会に関わる理論を見出し、説明できるようになること。 | |
| | 公共政策特論 | | ◎ | | ○ | 1. 地域が抱える公共的問題の構造について説明できる。 2. 公共政策学における政策過程モデルを説明できる。 3. 公共政策学の学問的動向と現代的課題について説明できる。 | |
| | 法律学特論 | | ◎ | | | 国家をめぐる諸制度・諸問題を理解し、適切に説明できる。 | |
| | 経済学特論 | | ◎ | | | 経済学の専門的知識及びそれを踏まえた実態経済の分析能力を修得する | |
| | 地域構造特論 | | ◎ | | ○ | ・現代日本の地域構造とそれを形成するメカニズムについて理解し理論的に説明することができる。 ・地域の社会経済的課題を地図・統計やフィールド調査に基づいて実証的に分析する方法がわかる。 | |
| | 空間情報科学特論 | | ◎ | | ○ | ・実社会における空間的な諸問題をGISを活用して地図化することができる。 ・実社会における空間的な諸問題の解決に資する空間分析を実行することができる。 | |
| | 地域文化特論 | | ◎ | | ○ | 現代における有形・無形の地域文化資源の保存・継承・活用をめぐる課題について理解している。 現代における地域文化の「資源化」に関する取り組み事例とその特色を、当該地域・事例の文脈を踏まえて説明できる。 | |
| | 地域言語特論 | | ◎ | ○ | | 日本の地域社会における言語動態について、社会言語学的な視点から明らかにする。実際に言語調査を行い、その結果を分析することによって、社会言語学的な調査研究のあり方を具体的かつ体系的に習得することを目標とする。 日本の地域社会における日本語教育の諸問題について、実際に聞き取り調査を行うなどして、解決策を探っていく。 | |
| | 日本歴史文化特論 | | ◎ | | | ・日本古代中世史、日本考古学上の最新の研究成果をふまえ、課題と問題点について理解している。 ・上を踏まえつつ、比較地域史的視点から、地域独自の歴史像を再発見する。 | |
| | アート表現特論 | | ◎ | | | ・現代における表現をめぐる課題について理解している。 ・現代における表現とその特色を、歴史・事例の文脈を踏まえて説明できる。 | |
| | 映像デザイン特論 | | ◎ | | ○ | 映像に関わる諸般の概論的知識を理解する。・映像編集に積極的に参加しテクノロジーに関する基本的な知識・技術を理解し獲得する。・映像を活用し、視覚的に意図の伝達ができるようになる。 ・プロジェクトの課題に対し映像によって思考を整理し意味ある成果を表現できる。 | |
| | 空間デザイン特論 | | ◎ | | ○ | ・心理や行動を定量的に把握するための統計解析の実践的手法を習得している。 ・建築や都市のデザインの必然性を人間の心理や行動の観点から説明できる。 | |
| 健康社会特論 | | ◎ | | ○ | ・地域における健康づくりやスポーツ推進に関する論文を抄読することができる ・持続可能な健康な社会づくりに向けた自らの意見を持ち、討論で深めることができる | | |

| 科目名 | | | 教育上主要な科目 | ディプロマ・ポリシー | | | 科目の教育目標 |
|------------------|------------|--|----------|---|---|--|---|
| | | | | 【1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力】 | 【2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲】 | 【3. 国際的発信力及び社会貢献】 | |
| | | | | 人文・社会・人間科学分野における高度な専門知識と関連領域における幅広い知識、論理的思考力を備え、総合的かつグローバルな視点に基づき、明確な問題意識を持ち専門分野における研究を進める能力に加え、地域課題の解決と、持続可能な地域社会の創成に主体的に貢献できる高度な実践能力を | コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら高い倫理観・責任感を身につけ、知性、理性及び感性が調和し、自立して行動できる。 | 現代の地域や社会に見られる諸問題を人文・社会・人間科学とその関連領域の幅広い視点からの確に分析し、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信する能力を備えるとともに、持続可能な地域社会の創成に主体的に貢献する能力を有する。 | |
| 専攻専門科目・教育クラスター科目 | 応用生理学特論 | | | ○ | ○ | ○ | 1 疾病と運動との関係を修得している 2 健康づくりのための生活環境を修得している 3 健康に関連する社会的諸問題に対して、その解決に向けた施策に応用することができる |
| | 福祉社会特論 | | | ○ | ○ | ○ | 1. 人文社会科学にもとづく専門知識、総合的かつグローバルな視点から地域課題に取り組むための基礎的な能力を身につける。 2. 地域社会の中で生じている介護問題や児童福祉問題、障害者福祉問題への理解を深めるとともに、主体的な情報収集・情報発信するスキルを身につける。 |
| | 行動科学 | | | ◎ | | ○ | 1 ヒトの行動の生理的特性を修得する 2 ヒトの行動の生理的諸機能の測定評価方法を修得する 3 ヒトの行動の心理的特性を修得する 4 ヒトの行動の心理的諸機能の測定評価方法を修得する 5 健康に関連する社会的諸問題に対して、その解決に向けて知識を応用する |
| | 健康心理学特論 | | | ◎ | | ○ | 1. スポーツ及び身体活動が「運動」として心身にどのような影響を与えるか理解する 2. リラクゼーション技法が「休養」として心身にどのような影響を与えるか理解する 3. 人間の“からだところ”の関係について議論し、地域における心身の健康づくりの基本を学ぶ。 |
| | 健康教育学特論 | | | ◎ | | | ・代表的なスポーツ外傷・障害の評価方法およびパフォーマンスの測定方法を実施できる ・健康またはトレーニングに関する論文を抄読することができ、結果をまとめることができる |
| | 運動栄養学特論 | | | ◎ | | | 運動栄養学に関する基礎的知識・科学的理論を習得し、過去・現在の研究動向について説明できる。また、運動栄養学に関する知識と自身の研究や地域の課題との関連性を説明できる。 |
| | 地域産業創生特論 | | | ◎ | | | ・地域と産業の関係を理解できる ・地域における企業の経済活動を理解できる ・産業クラスターの優位性を理解できる ・産業連関分析が理解できる |
| | 芸術工学デザイン特論 | | | ◎ | | | ・解決したい課題に対する解決手法を、デジタル・アナログ問わず総合的目線から検討できる。 ・自身の提案をユーザー目線に立って分かりやすく示すことができる。 |
| マーケティング特論 | | | ◎ | | | 複雑な市場環境における、顧客との関係構築について理解している。 成熟した市場におけるブランド戦略の重要性を理解している。 企業のマーケティング活動、特にポジショニングの設定を深く考察することができる。 グローバル経済における諸課題に対して、マーケティング管理の視点から取り組む意欲が持てる。 | |

| 科目名 | | | 教育上主要な科目 | ディプロマ・ポリシー | | | 科目の教育目標 |
|----------------|------------------|---|----------|---|---|--|---------|
| | | | | 【1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力】 | 【2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲】 | 【3. 国際的発信力及び社会貢献】 | |
| | | | | 人文・社会・人間科学分野における高度な専門知識と関連領域における幅広い知識、論理的思考力を備え、総合的かつグローバルな視点に基づき、明確な問題意識を持ち専門分野における研究を進める能力に加え、地域課題の解決と、持続可能な地域社会の創成に主体的に貢献できる高度な実践能力を | コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら高い倫理観・責任感を身につけ、知性、理性及び感性が調和し、自立して行動できる。 | 現代の地域や社会に見られる諸問題を人文・社会・人間科学とその関連領域の幅広い視点からの確に分析し、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信する能力を備えるとともに、持続可能な地域社会の創成に主体的に貢献する能力を有する。 | |
| グローバル系科目 | グローバル社会特論 | | ○ | ○ | ◎ | ・現代におけるグローバル化が、トランスナショナルかつローカルに生じていることを、具体的に理解している。 ・社会、経済、文化、政治の諸側面におけるグローバル化の特質を、個別事例の文脈を踏まえて、かつ文脈を超えた趨勢として複合的に説明できる。 | |
| | グローバル文化特論 | | ◎ | ○ | ○ | グローバルな状況のなかで課題を発見し、問題解決をおこなうために際に必要な社会科学的知识やスキルを身につける。 | |
| | 応用倫理学特論 | | ◎ | | | 環境倫理的な問題について、学問的知見から評価・判断することができる。 | |
| | 言語コミュニケーション特論 | | ○ | ○ | ○ | 世界語としての英語という言語をより深く理解するとともに、グローバル化が進む地域社会における国際交流を促進するための英語コミュニケーション力を身につける。 | |
| | 英語圏文化特論 | | ◎ | | ○ | 地域における多文化共生社会の創成に寄与することができるよう、英語圏の文学を中心とする文化的な知識と教養を自分なりに修得すること。 | |
| | ヨーロッパ文化特論 | | ○ | | ○ | ・学際的・総合的な文化研究について理解している。 ・グローバル化する文化を理解し地域のグローバル化に対応できる ・地域における国際交流の必要性を理解している | |
| | アジア文化特論 | | ◎ | | | 中国における親族組織、村落、地域、国家に対する理解を深める。 | |
| | 日本語文化特論 | | ◎ | | | ・日本の古典・近現代文学全般に亘る理解力、洞察力を獲得する。 ・上記の目標達成と同時に、日本文化としての日本文学の特質に関する理解ができるようになる。 | |
| | 日本文化特論 | | ○ | | | While reading works about literary theory and texts written by Murakami Haruki students acquire a certain awareness of the characteristics of modern Japanese literature, and reconsider Japanese culture and literature from a global point of view. 文学理論についてのテキストや村上春樹の作品を読みながら学生は現代日本の文学を中心とする文学的知識と教養を修得し、グローバルな視点から日本文学と日本の文化を再考できる。 | |
| 教育クラスター（他専攻）科目 | 防災・危機管理クラスター | | ○ | | ○ | 防災・減災関連技術など社会のリスク管理に関連した基礎知識を習得する。 | |
| | 地域開発クラスター | | ○ | | ○ | 徳島の地域特性を活かした社会再生のための基礎知識を習得する。 | |
| | メディカルサイエンスクラスター | | ○ | | ○ | 理学・工学の知識を医学・医療現場に展開するための基礎知識を習得する。 | |
| | ロボティクス・人間支援クラスター | | ○ | | ○ | 福祉・介護ロボットや生産技術・流通・計測ロボットなどロボット関連技術につながる基礎知識を習得する。 | |
| | データサイエンスクラスター | | ○ | | ○ | 膨大なデータから必要な情報を分類・抽出し、社会の諸問題を効率的に解決できるデータ解析手法やその関連技術の基礎知識を習得する。 | |
| | 環境共生クラスター | | ○ | | ○ | 地域の自然・文化・社会環境を理解し、人間と環境の調和に根ざす持続可能な共生社会の実現につながる基礎知識を習得する。 | |
| | 6次産業クラスター | | ○ | | ○ | 地域創生のため、地域の農林畜水産物を6次産業化する実践力につながる基礎知識を習得する。 | |
| 学位論文指導科目 | 地域創成特別演習 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | 修士論文作成のための総合的な準備と実践 | |
| | 領域横断セミナー | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ・総合的な学術研究の基本を身につけている。 ・論理的思考力と発表スキルの基本を身につけている。 ・現代の地域をめぐる多様な課題について理解している。 ・異なる研究領域との交流を通して多面的な研究視点を獲得している。 | |